

# 暴かれた真実。業界黙示録

「暴かれた真実・業界黙示録」は、実際に起こったパチンコ・スロット業界の事件詐欺・摘発などをもとに構成された実録風ドキュメント連載である。登場人物や店名は仮名化されているが、事件の内容は極力事実に基づき構成されている。閉ざされたホールの奥で何が起こっていたのか——いま、その真実が暴かれる。

## File.11 実録・新宿「劇場」の崩壊——十億円を筆り取った偽りのプロ集団

### ■液晶に溶け込む救済の嘘

その「告知」は、かつてのパチスロ雑誌の巻末にあった、古びた三行広告のような胡散臭い姿ではなかった。

時代は2010年代半ば。スマートフォン・タブレットの爆発的な普及は、人々の掌の中に世界をもたらすと同時に、パチンコ業界を取り巻く闇の侵入経路をも劇的に変貌させていた。かつての泥臭い攻略法販売は、洗練されたWebデザインをまとい、「投資顧問」や「ITコンサルタント」と見紛うようなスマートな顔をして、日常の隙間に潜んでいたのだ。

「極秘解析データの流出。メーカー監査役から提供された、明日勝てるための『真実』を限定公開」

地方の工業団地にあるワンルームアパート。カーテンを締め切った薄暗い部屋で、田中茂樹(仮名・34歳)がそのパナール広告を見つめていたのは、夏の湿気が肌にまとわりつく気だるい午後だった。

部屋には、コンビニ弁当の空き容器と、督促状の封筒が散乱している。彼の財布は、さえない。手順をミスすれば、メーカーのサーバーに検知される。覚悟はできていますか？」

田中は、その言葉の重みに気圧された。そして、最初に提示された「サーバー登録料」という名目の5万円を、その日のうちに振り込んだ。これが、略奪の始まりに過ぎないことをまだ知る由もなかった。

### ■換金される「希望」

振り込みを確認した直後から、劇場は加速していく。

「田中さん、朗報です。メーカー内部でテスト運用されている『設定6強制フラグ』のシリアルが一つ空きました。これを使えば、明日のうちに200万は抜けます」

佐藤の興奮したような声に、田中は舞い上がった。だが、その直後に冷徹な条件が突きつけられる。

「ただし、このシリアルを有効にするには、保証金として100万円が必要ですが、これはあくまで保証金。一週間後には全額返金されます」

100万円。そんな金はどこにもない、と田中は拒絶した。しかし、劇場はそれを許さない。「ここまで来て諦めるんですか？先ほどの5万円も無駄になりますよ。いいですか、明日になれば手元には200万円残り、一週間後には100万円が返ってくる。今、どこかで工面してくれば、あなたの借金はずべて消えるんです。親戚でも知人でも、事情を伏せて借りる方法はあるはずだ」

の中身はわずか数千円。消費者金融への返済期限は翌日に迫り、すでに貸付枠はどこも天井を叩いていた。

「もう、終わりか……」

田中は、誰に言うともなく呟いた。工場ライン作業で酷使した体は鉛のように重く、思考にはモヤがかかっていた。正常な判断力など、とうの昔に擦り減っていたのだ。

そんな彼にとつて、暗闇の中で青白く光るスマホの画面だけが唯一の「外の世界」との繋がりが残った。画面の中で踊る「解析データ」や「監査役」といった権威的な言葉は、ギャンブルの誘いではなく、理不尽な現状を一発で覆すための「正当な救済措置」に見えたのである。

震える指先が、パナールをタップする。登録したメールアドレスに、自動返信とは思えないほど丁寧な文面が即座に届く。

「本気で現状を変えたい方のみ、お電話ください。あなたの負け分は、情報という武器で取り戻せます」

その文面には、追い詰められた人間の

それは、田中がこれまで「人として」踏みとどまっていた最後の線だった。だが、受話器から聞こえる悪魔の囁きは、その良識さえも麻痺させていった。

田中は、それからの数日間をどう過ごしたか、記憶が曖昧だった。実家の両親に嘘をつき、親戚を回り、最後には闇金にまで手を出した。かき集めた100万円を、新宿の指定口座に振り込んだ。

翌日、指示された通りに地元のホールに向かった。指示書には、複雑な手順が書かれていた。「リールを回しそのまま自動停止させた後、次ゲームは逆押しで7を狙い、液晶の表示が……」

しかし、何も起きなかった。3万、5万と吸い込まれていく現実だけが、ひりひりと積み上がっていった。

パニックになった田中が事務所に電話をかける。佐藤は怒鳴り散らした。「あなたの打ち方が1秒遅れた！だからサーバーの同期がズレたんだ！この損害をどうしてくれるんだ！」

攻守が逆転した瞬間だった。田中は「自分のミスでチャンスを壊した」と思い込まされ、さらなる復旧費用、追加登録料と、際限なく金を筆り取られていった。田中の財布から金が尽き、一歩も動けなくなったとき、新宿の電話機は冷たく切られた。

### ■警視庁捜査二課 突入

2014年の初夏、ついに警察の鉄槌が下る。

全国の消費生活センターに寄せられた相談件数は数千件に及び、その被害総額

射幸心と焦燥感を撫で、そして巧みに突き刺す、独特の冷徹な知性が漂っていた。田中が発信ボタンを押した瞬間、静まり返った部屋の空気は一変した。新宿に拠点を構える巨大な「劇場」。その観客席に、新たなカモが座らされた瞬間だった。

### ■新宿「劇場」の配役

新宿・西新宿の雑居ビル。その一室には、表向きの看板は一切掲げられていなかった。

室内には、安物の長机が隙間なく並べられ、その上には数十台の安価なIP電話と、汚れた目立つPCモニターが置かれていた。効率だけを求めて機械的に配置されたその光景は、ながら「欲望の加工工場」であった。壁一面には「本日の達成目標3000万円」という、血も凍るようなノルマ表が貼られ、そこに座る「かけ子」たちは、数百ページに及ぶ分厚い劇場型勧誘マニュアルを無機質に読み上げている。

「お疲れ様です、パチスロ解析機構・アドバイザーの井上です」

電話口の男の声は、驚くほど低く、理性

は10億円を超えていた。事態を重く見た警視庁捜査二課は、執念の捜査の末、新宿・渋谷界隈に潜伏していたグループの拠点を特定した。

早朝、雑居ビルの扉を捜査員たちが一斉に蹴破った。

そこには、最新鋭のサーバーやハイテクな設備など、一切存在しなかった。安物のデスクに並ぶ大量の電話機と、ポロポロになった「断り文句への切り返し集」と題された台本。そして、ターゲットとなった全国数万人分の「カモ名簿」が保管されていた。

名簿には、「もう一度だけ、あの興奮を」と願う人々の名前が、その特徴と共にびっしりと書き込まれていた。

逮捕されたのは、主犯格の男から、アルバイト感覚で電話をかけていた若者たちまでを含む数十名。

彼らのパソコンからは、犯行後の「シャパンパーティー」の動画が見つかった。被害者が借金に苦しみ、絶望の淵に陥り、一方、彼らは筆り取った金で贅沢の限りを尽くしていたのだ。

主犯の男は、取り調べで平然と言いつつ、

「パチンコなんて元々ギャンブルだろう。負ける奴は、どんな嘘でも信じたい



的だった。田中は、これまでに出会ったホールの店員や軍団の男たちとは全く異なる「権威」を感じ取った。

「田中さん、あなたが負けているのは、

努力が足りないからではありません。情報が遮断されているからです。メーカーがバグを隠蔽し、ホールがそれを運用する。その隙間を突く方法を、私たちは「正規のルート」で入手しています」

井上の役割は、田中の負債額や家族構成、そして「いくらなら今すぐ用意できるか」を徹底的に聞き出すことだった。ひとしきり同情を寄せ、共犯意識を植えつけたところで、井上はこう言った。

「私の一存では、これ以上の最高機密は明かせません。解析担当の責任者に電話を繋ぎます」

これが彼らの「劇場」の真骨頂だった。複数の人間が役割を演じ分けることで、実体のない組織に巨大な信憑性を持たせる手法である。

電話を代わった「佐藤」と名乗る男は、さらに高圧的だった。

「いいですか、この情報は一部の上場企業役員しか共有されていない。失敗は許さらないですよ。俺たちは、その『夢』を売ってやっただけだ」

その言葉は、冷酷な響きを伴って取調室に消えた。

### ■砂の上の王国、その先へ

田中茂樹の元に、奪われた金が戻ることはなかった。

詐欺グループが筆り取った10億円は、複雑なマネーロンダリングによって海外の口座や、別の犯罪組織の資金源へと消えていった。

田中は現在、自己破産の手続きを進めながら、細々と日雇いの作業に従事している。かつて蒲田で万枚を出し、澄み切った空を見上げたあの興奮も、今は遠い幻のようだ。

彼らが解析したのは、パチスロの基板などではない。追い詰められた人間が最後に見る「奇跡への執着」という脆弱な回路だったのだ。

パチンコ・パチスロ。それは厳格な抽選と、店側の健全な運用によって成り立つ「遊技」である。そこに「打ち出の小槌」など存在しない。

甘い言葉で近づく攻略法詐欺は、現代でもSNSや動画サイトへと形を変え、新たな獲物を探し続けている。もし、あなたのスマホの画面に「極秘データ」という言葉が踊ったなら、どうか思い出してほしい。その液晶の光の向こう側には、あなたの人生を「換金しよう」と待ち構える、新宿の「劇場」が今も開演しているかもしれないということ。